

グローバル・スタディーズ と宗教研究

2009年8月より1年間、カリフォルニア大学 サンタバーバラ校（UCSB）で在外研究期間を過ごしました。サンタバーバラはロサンゼルスより北へ100マイル（約160キロ）ほどのところにあります。UCSBは太平洋に突き出した、まるでビーチと一体化したような陽気あふれるキャンパスですが、そこで切磋琢磨し合う刺激的な知的雰囲気を楽しむことができました。

私はUCSBのオルファリア・グローバル国際研究センター（The Orfalea Center for Global & International Studies）に所属していました（「オルファリア」はこのセンターへの出資者であるキンコーズ設立者オルファリア氏に由来しています）。センター所長は、宗教と暴力に関する世界的権威、マーク・ジョーギンスマイヤー教授です。彼の元来の専門は神学や宗教学なのですが、世界で初めてグローバル・スタディーズのプログラムを大学レベルで立ち上げ、その後、世界中で徐々に増えてきたグローバル・スタディーズの関係諸大学をとりまとめる役割を果たしています。

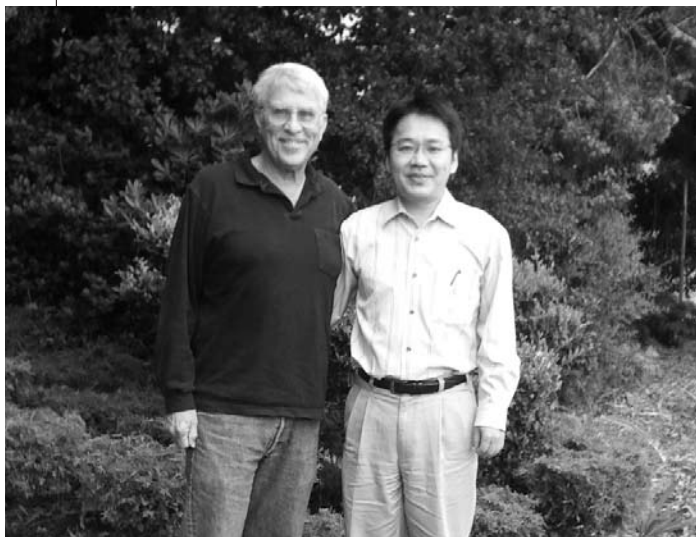
私が滞在していた期間中、彼はアメリカ宗教学会の会長も務め、多忙を極めていましたが、彼の人脈のおかげで、グローバル・スタディーズや紛争解決、宗教と暴力などの分野の著名人が、続々とセンターにやって来て講演や研究会を行っていました。UCSBの教授たちも多数参加して、学生そっこのけで激論を交わすことには最初面食らいましたが、アメリカの学問的エネルギーの源泉を見た思いがしました。

在外研究における私の研究テーマは「グローバル化する宗教とナショナリズムの相関関係」というものでしたが、実際には、このテーマに限らず、普段勉強できないことをUCSBの宗教学部やグローバル・スタディーズを拠点にして学びました。大学院のゼミでは、世俗化をテーマにウェーバー、ニーチェ、フーコーなどを読みました。3時間ぶっ通しのゼミなので、へとへとになるまでたっぷりと議論ができました。東アジア学では、現代中国の宗教と社会の関係について学ぶ機会を得ました。

理論的な研究は宗教学を中心に進め、現実世界における問題はグローバル・スタディーズの枠組みで学びを深めること

によって、両者の相乗効果を得ることができたように思います。実際、アメリカにおいては宗教研究とグローバル・スタディーズは密接な連携をしており、互恵的な関係にあります。それと同時に、グローバル・スタディーズという新設の学問領域において、従来の地域研究などとの方法論的な違いや積み分けについての問題がなおも未完の課題として残り続けていることを、事あるごとに感じさせられました。新しい学問領域の揺籃期に居合わせることは刺激的であるだけでなく、自分の課題に対するフィードバックともなりました。現在、私は一神教学際研究センターのセンター長を務めていますが、一神教の学際的研究も、途方もなく巨大で複雑なテーマです。手探りしながらでも前進していくという、新領域における基本姿勢を在外研究で再認識することができました。

ジョーギンスマイヤー教授の講義や、他のセンター主催の講演会で、日本社会と日本の宗教について話しました。私の本来の専門はキリスト教神学や一神教研究なのですが、やはり、一般的にアメリカ人は日本固有の事柄について知りたがっています。アニメと日本の宗教性についてのゲスト・レクチャーを東アジア学の講義の中でしたときには、異様なほどの歓迎を受けました。日本のアニメのグローバルな影響力を考えると、こうした側面をも組み込んだ宗教研究が必要であることも痛感した次第です。在外研究で得たものを今後の教育研究に大いに役立てたいと思っています。



ジョーギンスマイヤー教授と

- 行き先：カリフォルニア大学 サンタバーバラ校、オルファリア・グローバル国際研究センター（アメリカ）
- 期間：2009.8.1～2010.7.31
- 研究テーマ：グローバル化する宗教とナショナリズムの相関関係